



第7回「国労新潟ゴルフ大会」が11月5日・湯田上GC護摩堂・紫陽花コースで開催されました。

参加者12名が来年のエリアゴルフ大会、優先権を賭けて、互いの技を競うノータッチプレイで行われました。

半袖でできる暖かさ

11月ゴルフとしては半袖で出来る暖かさで、言い訳無用のラウンドになり、パー3・5全てのホー



NO. 964
発行
2018年
11月30日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
加藤 秀夫
編集責任者
教 宣 部

優勝は安川選手

第7回国労新潟ゴルフ大会開く

ルにニアピン・ドラゴンを企画しスコア崩した残念な？人も集中出来る様なラウンドに設定しました。

豪打が炸裂 ニアピン賞

第1組・新潟工務、玉木選手の空振り疑惑？後の豪打が炸裂し、上々のボギースタート。前半6・9#パー2つ後半3#パー1つ、ダボ以下無しの45・47で廻り3#紫陽花パー3でニアピン賞も獲得した。



エースの力見せつけた

同組の、新潟エース長谷川選手は前半パーデー1つパー5つのロケットスタートでした。

参加選手

新潟運輸区

- 長谷川 喜美男
- 小林 克博

工務協

- 玉木 敏晴
- 安川 覚務
- 権瓶 務

新一運

- 加藤 秀夫

OB

- 坂上 忠治
- 江端 隆男

支援者1名



しかし昼食休憩時に飲み過ぎ・食べ過ぎ？なのか後半はパー1つと精彩を欠いたが、ドラゴン・ニアピン賞を各1つ獲得し、42・49のベスグロでエースの力を見せつけました。

80台を出した相性の良いコース

第2組・OB坂上選手が約35年ぶりに記録した80台を出した相性の良いコースで、今年の勢いそのままに前半5・7・9#パー3つに同伴競技者、阿部選手の顔色が変わりました。

後半は疲れが出たのか？ショットが曲がり出しました。

しかし今年の課題の1つである忍耐で堪え、46・53で自身大会初の100切りを達成、ドラゴン・ニアピン賞も獲得しました。



執念を見せたラウンド

第3組には新潟駅連合ゴルフ・ライバル数え唄？榎並、前田選手が常に前組、阿部選手の動向を監視する？白熱した戦いが繰り広げられました。

(裏面へつづく)



前半・堅実な複並選手の失態で阿部選手が大きなアドバンテージを握ったが、前半4#前田選手が寄せしこぶする執念を見せ、午前ラウンドをお互いに49で廻りました。

昼食休憩のバイキング料理でタラ服食べる2人を見て、「チャンスは必ず有る」と複並選手は持ち前の粘りのゴルフが実を結び、徐々に差が詰まってきました。

ガン見したスコアレビューの経過に焦ったのか？2人がミスを連発



大逆転勝ち

複並選手は後半は48で巻き返し2人に4打差の大逆転を演じました。

同組、加藤選手は前半7#でニアピン賞をゲットしたものの、後半はの苦しいラウンドでしたが、後半は3#で盛り返し、最後9#難関413Yを彼だけがバーディ逃しのバーで上がり50・46でエリア大会出場組のメンツを保ちました。

栄えある優勝は、エリア副主将・安川選手45・47でした。



優勝者・安川氏のコメント

OB・3, 4パット・バーディ有りのドタバタゴルフでしたが、11月とは思えない天候と、成績不振ながらも場を盛り上げて(五月蠅い?)頂いたパーティと快く参加された皆さんのお陰でハンディにも嵌り優勝出来ました。

悔しかったのはベスグロにライバル長谷川選手と1打たりなかった事です。

今回は、この悔しさをバネにして、ベスグロとエリア出場権を当選させたいと思います。

最後に、同伴競技者並びに企画された役員と参加された皆様に、感謝します。



大会参加者の皆様、お疲れさまでした。好天に恵まれて、素晴らしい大会になったのでしょうか。

エリアのゴルフ大会の出場メンバーの方々、来年の大会も頑張ってください。宜しくお願いしました。



今後の日程について

- 国労福島交流 11月24~25日
- 直江津地域分会大会 12月1日
- 新潟地区労会議定期大会 12月6日
- 運輸協定期委員会 12月7日
- 工務協定期委員会 12月8日
- 新潟運輸区分会大会 12月11日
- 新潟駅連合分会大会 12月14日
- 地本旗開き 1月19日
- 拡大中央委員会 1月26日

編集後記

12月に入りますと分会大会が開催されます。職協なども委員会が開催されます。

さまざまな職場の課題、問題点について議論されます。

地本は11月17日に退職者激励会が開催されました。60歳に年齢が達すると対象となります。

そして、年金が支給される年齢になるまで雇用が継続されます。旅客会社は、60歳になるとエルダー出向となります。

出向先が民間会社で、ほとんどが劣悪な労働環境になっている実態が報告されています。

新年度からJR本体に残れる制度に変わります。もっと働きやすい環境に改善していかなければなりません。

